

第1回尾張旭市交通問題対策協議会

1 開催日時

平成15年6月18日（水）

開会 午前10時

閉会 正午

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂1

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

委員：大澤一夫、大矢英樹、荻原善夫、奥野昌明、苅谷勝、加藤桃代、
近藤重男、櫻井栄二、田中悦子、田中さゆり、寺田千珠子、
服部正勝、林喜一、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

4 議題等

- (1) 協議会の設置目的等について
- (2) 会長、副会長の選出について
- (3) 市内公共交通の現況について
- (4) 交通問題に関する議会審議等の経過について
- (5) 今後の進め方について
- (6) その他

5 会議の要旨

(1) 協議会の設置目的等について

尾張旭市交通問題対策協議会設置要綱に基づき説明

- ①名鉄バス事業者からの退出意向の申し出及び公的補助申し出路線への対策
- ②市民の生活交通の確保

(2) 会長、副会長の選出について

会長に加藤哲男（名古屋産業大学教授）、副会長に黒田鉦司（自治連合協議会）を選出。

(3) 市内公共交通の現況について

〈名鉄バス路線の減少について〉

名鉄バスから愛知県バス対策協議会に対し申し出があった。申し出内容は、平成16年4月1日付けで、廃止する路線と、公的補助が受けられれば続ける路線が、各1路線あるということである。

これについて、尾張旭市の対応を愛知県バス対策協議会に回答する必要がある。

〈市内のバス路線の現況〉

便数では、本地住宅から藤ヶ丘へ行く名古屋市営バス、瀬戸方面から名鉄バスセンターへ行く路線が多い。現行の駅、バス停から500m以上はなれた地域を交通不便地とすると、市内に7地域ある。

〈尾張旭市タクシー基本料金助成事業について〉

尾張旭市では現在、高齢者、身障者対象にタクシー基本料金助成事業を行っている。

【質問・意見】

Q 高齢者タクシー助成は80歳以上の方が申し出された場合に交付されるのですか。

A 80歳以上の方を対象に、申請をされた方に交付をしています。

Q [森林公園ゴルフ場前～藤ヶ丘]行きや[旭団地～藤ヶ丘]行きの路線バスが廃止されると、交通空白地域が拡大されるのですか。

A [森林公園ゴルフ場前～藤ヶ丘]の路線については、補助を受けられれば継続していきたいという考えなので、必ずなくなるというものではありません。[旭団地～藤ヶ丘]の路線については、旭団地と旭団地口のバス停がなくなる分だけ空白地域が増えます。

(4) 交通問題に関する議会審議等の経過について

〈検討の経緯経過〉

平成10年9月の定例会で多数会派から巡回バスについての質問が出されたが、道路整備状況や財政状況等の問題から実施は困難であった。総務委員会で行政視察等を行い、巡回バスの路線案が出され、市でも市内4コースの試走を行ったが、様々な問題点があり、もう少し時間をかけて検討することにした。

平成 11 年には、市内巡回バスを実現する会ほかから 18000 人あまりの署名が集められ、議会に陳情書が提出された。「市内巡回バス問題特別委員会」で議論の結果、趣旨採択となったが、本会議では不採択となった。引き続き、議会に「交通問題対策特別委員会」が設けられ、一定の結論が出された。

平成 13 年度から高齢者（85 歳以上）対象にタクシー基本料金（チケット）の助成を始めた。

平成 14 年度からは、年齢を引き下げて 80 歳以上を対象に事業を行っている。

【質問・意見】

Q 福島県相馬郡小高町デマンドタクシーの視察に行かれたと伺いましたがどうでしたか。

A ここは商工会が主体で行っておりました。またの機会に報告したいと思います。

Q 名鉄バス路線の廃止や交通困難者に対する対策として、市はどういう考えをもっていますか。

A 市として、今、「こう行くのだ、これが一番いいんだ」というものは持っていません。この協議会で十分議論いただき、方向付けを共に考えていきたいと思っております。

Q 交通困難者の捉え方は高齢者・身障者の他、子どもも含めて考えたほうがいいのか。

A いろいろな方を含めてこれから議論が必要です。

Q 高齢者タクシー助成制度の実績を分析すると移動の傾向がつかめると思っています。

A 今後に向けて検討したいと思います。

Q 高齢者タクシー助成制度のタクシーチケットについては、「お役所からもらったものは大事にしよう」という考えで、持っただけでも使うのを遠慮するお年寄りも多くいます。そういう精神、心理的な面も含めて考えていただきたい。

A アドバイスとしてお聞きします。

(5) 今後の進め方について

〈協議会の進め方〉

今年度中、全8回の協議会を開催予定。最終回までには、「名鉄バスの退出意向の申し出に対してどのように対応していくのか」、「これから先市民の生活の足の確保をどのように図っていくか」の2点について提言をまとめる。

(6) その他

【各委員からの意見】

- バス路線が減ることにより影響が出てくることを、自治会、町内会などで意見を交わしてみたいです。
- 廃止路線の対応だけでなく、尾張旭市全体として交通問題をどうするのかを考えていかななくてはと思います。
- 停留所から遠くに住む（歩ける）人は停留所が近くにあればいいと思うだろうが、停留所まで歩くのが困難な人はそれでも困る。
- 例えば病院に行くのに、近くにバス停があればいいけれど、歩くのが困難な人は近ければ何とか行けるかもしれませんが、遠ければ本当に困ります。バスを考えるとときにはどういうふうに路線を考えるのかは大変難しい問題です。
- バスは利用者がなければ話になりません。
- バスを空で走らせるのは環境にも悪いです。
- バスもマイクロバスも入れない道をまず直さなければどうしようもありません。
- バス停まで行ける人を対象に考えるのか、バス停までいけない人を対象に考えるのか、両方あわせてか、別々になのか。対象者によって仕組みの考え方が変わってくるのでは？
- 公共交通は経済性と便利性が主題になるのではないかと考えています。通勤通学という経済性の高いところから進めて、ニーズに合わせてバス、マイクロ、ワンボックスなどを併用して複合的に行えば採算性のある安定した交通機関が実現できるのではないのでしょうか。
- 採算が合わないと維持は難しいと思います。利用率を上げるためには、どうしたらいいのかということをいろいろ考えたらどうでしょうか。
- 公共交通問題をどういうスタンスでどこまで取り上げたらよいかを議論できればと思います。
- バスを走らせることによって交通問題が解決するとは思っていません。バスを基幹の中心にしているんなことを総合していきたいというのが基本的な考

えです。高齢者の健康の基本は歩くことで、補完的に交通手段を考えたいです。

- 公共交通はお客さんなしで走っているものでは、何にもならないので、皆が本当に利用してくれる、皆が利用できる交通体系というのは何か、それを皆で考えていきたいです。その経費をどうするかという議論がしたいです。
- 地域の問題を地域の人たちと話し合うことは大変重要です。これからは「脱車社会」、あるいは「スローライフの社会」という視点でも公共交通の必要があると思います。この協議会で全国に「なるほど尾張旭市はいいものを作り上げた」と言われるようにがんばりたいと思います。
- 私自身、車を運転できないので不便な思いをしてきました。市民の足になるようなものを是非考えたいです。自分の地域を一番大事にして考えるとともに、交通問題を切り口に、市政全般、市のまちづくりについても考えなくてはならないと思います。
- 高齢者タクシー基本料金助成制度をもっと有効活用する方法があるのではないのでしょうか。

顧問のアドバイス

公共交通の問題は、これが絶対 100%正解だ、というものはありません。いろいろな所で、いろいろなアイデアを出して、市営だけでなく、自分たちでコミュニティバスを運行している団体はいくらでもあります。いまや、規制緩和の名のもとに、ほとんどフリーに近い状態で、きております。

公共交通の問題点は、「ある時間に、ある停留所まで行かないと乗れない仕組み」なんです。

また、30分に1本でも生活はできる。それが10分に1本になればもっと便利になる。でもそれには莫大なお金がかかる。それではどこまでどうする？という話もあります。

目標は100%満足、みんなが満足するのが一番いいのですが、公共交通で100点満点をはじめから目指したものを作ろうとすると、かえって一歩も前に進めないということになります。「それでは不公平だ。」と思う方はいっぱいいらっしゃると思いますが、まず試行し、どんどんいいものに近づけるように、一歩一歩進んでいくことが公共交通を考える上では重要ではないかと思いません。